

東山破水防倉庫改築工事

設計書

大和川右岸水防事務組合

竣工期限 昭和52年9月31日

設計者



金入

設計概要

工事名称	東山破水防倉庫改築工事
工事場所	大阪市平野区山崎東7丁目
工事概要 及び仕上 大要	倉庫改築 1棟
構造規模	コンクリートブロック造平屋建 建築面積 93㎡
屋根	コンクリート陸屋根 防水モルタル塗
外装	軒裏、壁、腰モルタル塗・リシン吹付仕上
内装	床コンクリートにて仕上、壁コンクリート化粧 目地仕上、天井、梁、巾木コンクリート打放
雑工事	(1) 既存木造倉庫解体搬去処分 1棟 (格納資材 搬出入を含む。) (2) 前面階段・花壇 (樹木を除く) 前面舗装

仕 様 書

総 則

意義の解釈 設計図の疑義は、入札前に設計図書に照り、請負契約後施行に関しては監督員の解釈に基づく。また設計図書は詳細を書き表わすことができない部分がある。此様な場合の施工は圖示の記載ない事項と看做し、異議なく監督員の指示による。設計圖面、設計概要又は仕様書、内訳明細書に記載する事項に関する効力の順位は上記の順序による。

関係法規及び届出義務 建築法、労働基準法、職業安定法、労働者災害補償保険法及び各関係法規その他工事関係諸規程等を遵守し、工事に関連する諸官公署会社の諸届出及び手続等は、総べて請負者の責任とする。

現場代理人及び工程表 現場代理人は建築士法第○条各号及びこの各号に規程する資格を有し、現場代理届及び経歴書を提出し承認を要す。

その他 請負契約後一週間以内に首工届及び工程表を提出し、監督員の承認を受け、施工はこれに基づく。また作業時間休日等協議のうえ認定する。

既成部分の検査 基礎、構造その他主要部分でさ上り毎に検査を受け然る後次の工程に着手する。
材料検査及び見本品 工所用材料は総べて検査を受け、または見本品を提出し、認可を得て使用する。不合格材は速かに場外に搬出措置する。合格材料は愚断で持ち出すことはできない。

日本規格 工所用材料その他で(JIS)又は(JIS)の制定あるものは別に指示ない限り、総べて上記規格を標準とする。

危険防止及び防護施設 労働安全衛生規則に規定する危険防止の施設、措置及びその方法を講ずる。風水害及び防火上、監督員等と要と認めるときは、相当なる防護手段及び施設を要する。

養生、整地及び跡仕舞 既成部分の亀裂、亀裂、腐食、汚染、破損、損傷、風雨等のおそれある箇所は適材を以て養生を図る。

工事完成に伴い別に指示ない限り、建物周囲2メートルづつ箇囲建築地盤線に則り水疎通勾配を附し整地し、下小屋 其の他仮設物等収入れ残材等は総べて搬出跡仕舞い掃除完全に施工する。

竣工検査 竣工期限以前に監督員の検査を受け、工事の遅漏又は施行不完全に因る手直

と制限を定めておく。

竣工検査は請負者立会のもと、設計図書に基づき公平、厳正に施行する。

土 工 事

設計図書に基づき、監督員立会のもと地盤掘り、水杭打角、隅側その他所定の位置に正確堅牢に打建てる。水杭は太さ、片厚通り良く鉋削り水杭は長さ込み大釘2本打ち、杭頭端に切り揃える。ベンチマークを最高りの固定物又は標準杭を打ち建てる標示する。日々着工前と永を基準に造形の点検を行い、歪が生じた場合監督員立会のもと修正を要す。

取 扱 造形は正しく根代地正確に打角を付け、深さ適当なる割栗石高さ込み代を見込み、必要箇所を掘削し、監督員の検査を受ける。

割栗石張方 割栗石は硬質、無層割栗石で、粒径は長径の2分の1以上、目潰砂利太さ9センチ目詰下り、定当の砂を流合するものを標準とする。

割栗石は一層とし、厚みは正座、大所間なく粒目に張り込み、目潰砂利を充分銅い込み、9センチ以上の掘き固め用具を用いて掘き固め上均し砂利を均しく敷き入水平相に引き揃く。

埋 戻 し 根代内の溜水等は汲み揚げ、監督員の検査を受けて埋戻す。根代工の木片及び有様物は悉く取除き、埋戻し9センチ毎に水締め手鋤、長棒等で掘き固め、箇所に応じて相当量を加える。

コンクリート工事

セメント (JIS) R5210に規定するポルランドセメント
集 材 清浄、強硬、耐久的で、塵芥、土酸その他の有機不純物の有害物を含まず、細粗粒が適当に混合したものを標準とする。砂利は扁平細長でないもので、強度はコンクリートの硬化したモルタルの強度以上

調 合 所要強度は下記による

$FC = 1.80 \frac{kg}{cm^2}$	基礎及び躯体鉄筋コンクリート
$FC = 1.35 \frac{kg}{cm^2}$	土間コンクリート

練方及び打 砂、セメント、砂利、水の順序に投ぐべし。空練り5回以上、水練4回以上、練り上りは色合い一様でかつ質が均一でなければならない。

打ち込みの際は適当な緊度で金締め図の、型枠の隅々までコンクリートを行きわたらせる。

積戻しようとするコンクリートの位置形状寸法を正しく合致するように組立てる。型枠はこれに支えられるコンクリートが自重や作業荷重に対して十分な強度を発揮するまで存置し、衝撃や振動を与えないよう、静かに取除す。

鉄筋工事

材料 鉄筋に用いる鋼材はJIS G-3101(一般構造用圧延鋼材)の規格に合格し、かつ降伏点が $24 \times 8 / \text{cm}^2$ 以上とする。

加工 鉄筋は図面に基いて加工し、折曲げに際しては 25 mm 以下は常温で正しく折曲げる。鉄筋の末端部は必ず折曲げる。折曲げは 180° とし、その内径は鉄筋径の 5 倍以上とする。径 10 mm 以下の鉄筋の折曲げは肋骨 $1/25^\circ$ 、その他は 90° まで減することかできる。

組立 鉄筋は正しい位置に配置し、コンクリート打ち込みの際移動しないよう十分堅固に組立てる。このため鉄筋交差点の要所は、径 10 mm 以上の鉄線で結束し、鉄筋と埋板との隙はモルタルで、鉄筋の位置により正しく保たせる。図面に指

示のない鉄筋と鉄筋とのあきは原則として最大砂利径の 1.25 倍かつ 25 mm 以上、丸鋼ではその直径の 1.5 倍以上とする。組立てた鉄筋の上を歩行し又はこれに荷重を加えないように注意する。作業の際鉄筋を移動し、又は折曲げた時はこれを正確に修正する。

継手及び定着 鉄筋の継手は大きい応力の生ずる所を避け、かつ同一カ所に集中しないようにする。主筋の継手の長さは径の 40 倍以上とし、径の異なる場合は両径の和の $2/3$ 倍とする。引張り鉄筋の定着長さは径の 40 倍圧縮側では 25 倍以上とする。

組積工事

コンクリートブロック 材質は、JIS-A 5406の規格による。隅角等直当な役物ブロックを用いる。

積用モルタル 調合は容積比 $1:3$ を標準とする。練方は充分練り合せ、1時間以上経過したものは使用してはならない。

補強鉄筋 隅角鉄筋は $1/2 \phi$ 、外が縦で 2ϕ 、間隔は縦 500 mm 、横 3 段毎
積方 コンクリート面は浸透、水浸しを行い図示のとおり割付け、正確に縦横の通り

よく、不直な模様又隅角等は、縦通り正しくモルタルを充分使用して積立てる。
縦横目地印10cm間外共化粧目地仕上げとし、積終りの部分はでき得る限り段差
げとすること。

建具工事

スチールシール、東洋シヤツタード、K製エングシヤツタード又は同等品以上とし、スプリング式
ハリダー、塗装は工場仕上、取付け倉庫名を書き入れる。標本文字は現場指示

左官工事

モルタル塗 セメント（JIS）5210の規定によるポルトランドセメント、砂は有害量
の泥土、塵芥及び有機物を含まない清浄硬質な砂で、12枚篩を75%以上通過する
粒度を標準とする。

モルタル割合及び塗厚は次表による容積比

材 料 名 称	下 塗		中 塗 付 道		上 塗		塗 厚
	セメント	砂	セメント	砂	セメント	砂	
床					/	2.5	30mm
壁	/	2	/	3	/	3	20mm
その他	/	2	/	3	/	3	20mm

コンクリー：部分の塗下地はワイヤブラシの類で塵芥、モルタル塊等を掻き落
し、清掃水洗いをする。下塗は充分に摺り付け、薄く塗り付ける。塗面は金櫛
又はわら等を掻き立て、ホーキ目を付け、中塗は下付け充分乾燥の上水湿しを
行い、出角入角垂直し面、角散り廻し正しく塗面平坦に総べて定摺りして塗上
げ、上塗は適度の湿気状態に鏝斑なく塗り上げる。予め塗継位置を定め同一塗
面における塗継としてはならない。

床面は1回塗仕上

防水モルタル塗 防水剤はオータイト又は、同等品以上を使用し、施工は製造業者の規定する
割合及び仕様に基づく。

リシン吹付 外部リシン（防水剤入）3回吹付仕上、色調筆色見本により指示する。

雑工事

棚 用材は総べて米びびノ等品、圓示寸法、鉋仕上、棚板はラワンベニヤ板15mm